



福島県立梁川高等学校

平成 30 年 8 月 23 日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 29

■ 白桃をもいで葉叢の下に置く (廣瀬直人)

桃は私の好物です。今年はスーパーマーケットで買ったり、知人から頂いたり、例年になくたくさん食べました。甘くて果汁の多い桃の味は格別であり、福島の夏を代表する果物です。私にとって桃は子供の時分から食べていたというだけでなく、学生時代の記憶とつながる特別な果物です。大学の前期試験が終わり帰省した私は、桃の選果場や缶詰工場でアルバイトをしていました。選果場では大きなホッチキスで段ボール箱を組み立て、缶詰工場では農家の方が収穫しコンテナや木箱に入れた桃をトラックで運搬する作業に従事しました。それはサークルの夏合宿の費用を捻出するためでしたが、お金を稼ぐ大変さを知る貴重な経験でした。あの頃は「大久保」や「白鳳」が主力品種でしたが、今は「あかつき」や「川中島白桃」などが主力になっており、その他にも多様な品種が生産され消費者に提供されています。夏が来るたび、私の脳裏には晴れ渡る空の下で緑色に広がる桃畑の光景や、炎暑の中で作業する農家の方々の姿が鮮やかに蘇ってきます。



■ 梁華祭に込められた先輩たちの願い

3年に1度の「梁華祭」が近づいています。本校の文化祭がこの名称に変更になったのは、今から36年前の昭和58年のことでした。『創立七十周年記念誌』では、一般的に梁高祭という名称で長年踏襲されてきた文化祭を「梁華祭」と命名した背景について次のように述べています。「とかく盛り上がり欠けたり、その場凌ぎのお祭りの騒ぎ事に終始する傾向を一新し、もう一度学校祭にふさわしい日頃の学習や、文化活動の成果を発表するというねらいから、意識改革をはかるための命名であった」。当時の実行委員会と学校側が協議した結果、全校生から名称を公募することになり、当時の3年1組のSさんの「梁華祭」が採用されました。梁川の「梁」と桜にちなむ校章と桜の城址にふさわしい「華」の組み合わせは、「リョーカ」という耳からの響きも良く採用となりました。「梁華祭」への改名は、期待通り生徒の意識を変え、中身の伴った充実した文化祭の実現につながったようです。実行委員長のM君は生徒会誌『広瀬』において、梁華祭を振り返って次のように述べています。「今年は三年に一度の大文化祭の年で、名称も梁華祭と改めての行事でしたので、どうしても成功させなければ、という思いで一杯でした」。また、生徒会長のI君は、同じく『広瀬』の巻頭言で次のように述べています。「三年に一度行われる梁高祭は、今年から梁華祭と改められました。やはり、名称の改名が学校全体に「やろう」という気持ちを高め、それが、各クラスや部活動などの皆さんの協力を大きくしたと思います。(中略) 仮装行列は、私達が考えた以上に町の人から「良かった」という声が聞かれとても好評でした。(中略) クラス展示も、高校生らしい物が多く、各クラスの特徴が出ていたと言うところが良かったと思います」。そして実行委員会は『梁川高校新聞』第71号において、梁華祭を次のように総括しています。「梁華祭をおえて、得たものは協調性、積極性、充実感、友情…と、青春の1ページを飾るには十二分なものであった」。ところで、文化祭の主役は言うまでもなく生徒一人ひとりです。したがって文化祭成功の鍵は、生徒諸君のやる気、創造力、協力体制にかかっています。生徒の皆さんには、先輩方が「梁華祭」の名称に込めて願いを受けとめ、実りある文化祭にして欲しいと思います。3年に1度しかない「梁華祭」を青春の1ページに刻むことができるよう、学校としても支援していきます。



昭和58年梁華祭のテーマは「青春！今この瞬間に乾杯」(『梁川高校新聞』より)

2学期が始まりました。

8月23日、2学期の始業式が行われました。夏休み中は大きな事故もなく、生徒が元気に登校しました。2学期は3年生にとって進路を決定する大切な時期です。就職試験や進学試験が間近に迫っていることから、準備を怠らず、よいコンディションで本番に臨んで欲しいと思います。また、1・2年生にとっては自分の可能性を掘り起こし伸ばすことができる絶好の時期です。学習に部活動に様々な面で積極的に取り組んで欲しいと思います。万物は絶えず変化しています。人間も然り。昨日の自分は今日の自分ではなく、今日の自分は明日の自分ではありません。生徒諸君には、自分を変える勇気を持つとともに、何事にも挑戦することを忘れずに、日々を過ごしてくれることを切に願っています。

音楽部がオラトリオに参加しました



8月12日、「伊達のふる里夏まつり」が行われ、今年も広瀬川親水公園で上演されたオラトリオに本校音楽部が参加しました。8・5水害から復興する梁川町の姿を歌い上げたステージ「水のほほえみ」は、聴く者に復興の歩みを伝える迫力があり感動的でした。音楽部の生徒11名は音楽団体や有志の方々と共に一所懸命歌っていました。リハーサルを通して他者とステージを作り上げたり、大勢の観衆の前で歌ったりする経験は、必ず生徒たちの成長につながると思います。参加した生徒の皆さん、お疲れ様でした。なお、当日はPTA役員の保護者6名と教員による夏まつりの巡回指導も行われました。関係の保護者の皆様と先生方には、あらためて御礼申し上げます。



親水公園のステージで水害からの復興の歴史を紡ぐ出演者の皆さん

だてな太鼓まつりに生徒会役員が参加しました



8月19日、保原の大泉公園において「だてな太鼓まつり」が開催され、相馬高校、帝京安積高校の和太鼓部による演奏が行われました。高校生力のこもった演奏は、つめかけた観衆を魅了し、会場は一体感に包まれていました。昨年に引き続き伊達市内にある保原・梁川・聖光学院の三校の生徒たちがステージ上で進行を努めるなど運営に携わりました。本校の生徒会役員4名はポスターの作成と記念Tシャツのデザイン、ビラの配布を担当しました。水口愛里さんが描いたポスターは、演奏者の力強さを表現した素晴らしい作品に仕上がっており、市内各所に掲示されました。参加した4名は地域行事に参加することを通じて、伝統芸能に対する理解を深め、故郷のよさを学ぶとともに、年齢や環境を異にする様々な人達と交流し、視野を広げることができたと思います。猛暑の中、本当にお疲れ様でした。



参加した生徒会役員4名



相馬高校の演奏



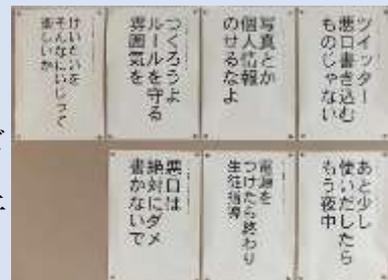
ステージ終了後のスナップ



水口さんデザインのポスター

スマホの使い方の標語を作ろう！

1年生の国語総合の時間において、スマホの使い方の標語を作る授業がありました。作品に関するコンテストが行われ、多くの作品の中から第1位に輝いたのは「**ツイッター 悪口書き込むものじゃない**」、第2位は「**あと少し 使いたら もう夜中**」でどの作品も生徒たちの素直な気持ちや気づきが表現されており、大変興味深く拝見しました。スマートフォンの長時間使用やSNS上のトラブルが深刻な問題になっています。生徒たちは標語作成を通じ、スマホの適切な使用と自分をコントロールすることの大切さを学びました。



3階掲示板で紹介されている入賞作品

梁高生の守護神、登場！

校長室と事務室に間にある収納ケースの上には、S事務長さんが作製したガンダムのプラモデルが飾られています。精巧に作られたその姿に神々しささえ感じるほどです。私は梁高生を守ってくれる守護神であると思っています。校舎の片隅から生徒諸君を見守っています。



部活動だより

《陸上競技部》

8月1日から4日まで北塩原・檜原湖で行われた福島陸連主催の中長距離強化合宿に男子2名が参加しました。

《野球部》

8月3日から4日まで野球部が山形県に遠征し、練習試合をしてきました。結果は以下のとおりです。秋の大会も川俣高校と連合チームで臨みます。

川俣・梁川高校 9-12 長井高校

川俣・梁川高校 16-17 谷地・左沢高校

《バスケットボール部》

8月18日、県北地区高校バスケットボール1年生大会が行われ、女子の部で福島明成高校と合同チームを組み参加しました。

福島明成・梁川高校 57-55 本宮高校

福島明成・梁川高校 26-89 保原高校